

# 東大キャンパス地下めぐり I

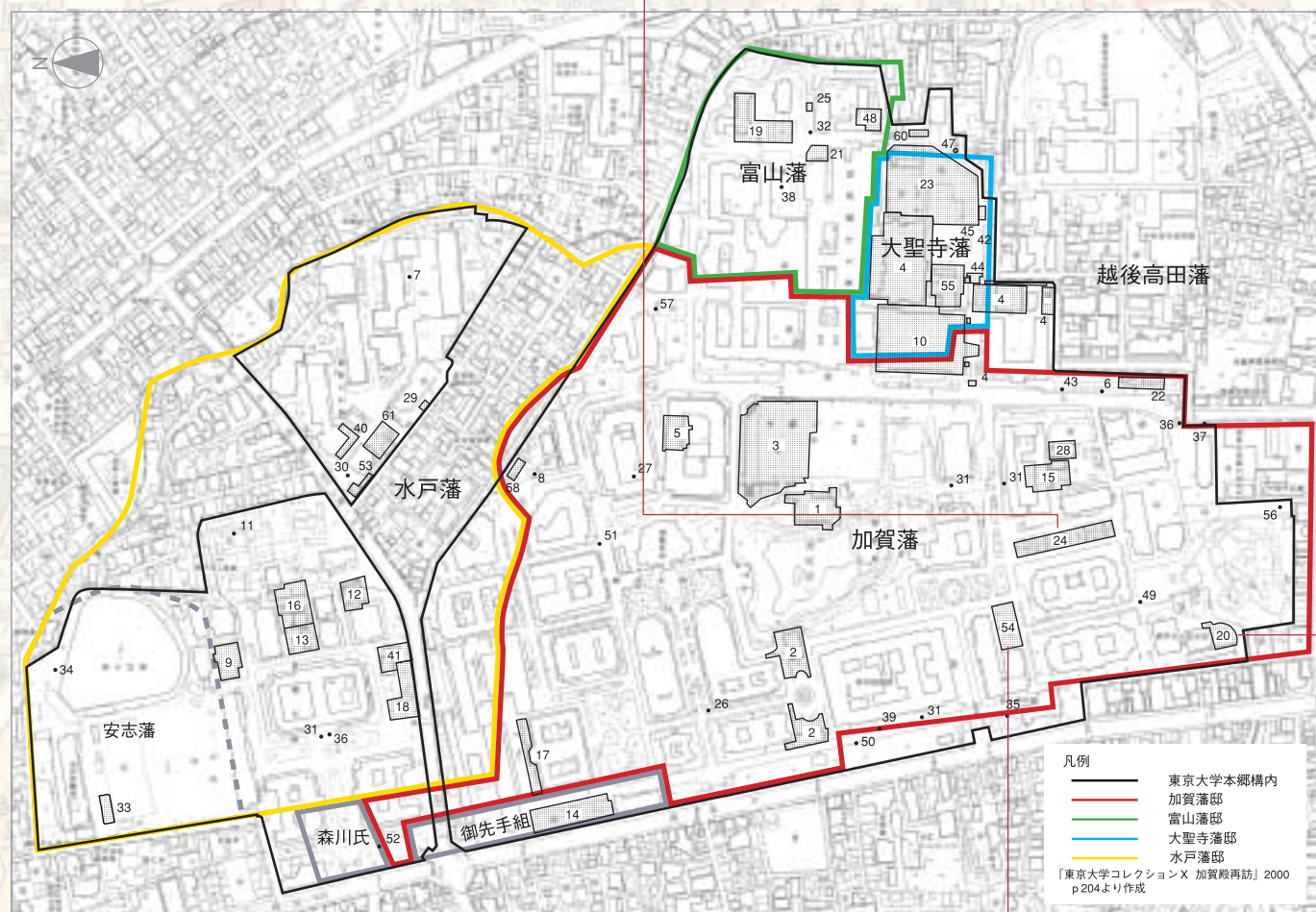
埋蔵文化財調査室



遺跡地図 24  
写真2  
医学部研究棟地点検出 能舞台



遺跡地図 20  
写真1  
総合研究資料館地点検出 前田侯爵邸(旧懐徳館西洋館)基礎



東京大学本郷構内の遺跡地図



遺跡地図 54  
写真4  
御守殿の地下室出土 「御膳所」の墨書のある碗



遺跡地図 54  
写真3  
経済学部地点検出 御守殿の地下室

## 地

下を探索する——とはいつても某TV番組の埋蔵文化財調査のような話ではない。現在我々がキャンパスとして使用している地面の下の話である。唐突に地下の探索をはじめると、酸素不足になりそうなので、まずはウォーミングアップから。

東大キャンパス、とりわけ本郷キャンパス内には、現在も使用している赤門や三四郎池をはじめ随所に地下散策への「手がかり」が残されている。というのも本郷キャンパスエリアが、概ね前田家の藩邸エリアを踏襲したものである。

例えば赤門や三四郎池などは、加賀藩前田家の大名屋敷内に造られていたものであり、赤門は徳川家十一代將軍家斉の息女浴姫が加賀藩十三代藩主斉泰に輿入れした際に造られた門であり(但し位置は移動している)、三四郎池を中心とする森の辺りは、藩邸内にあった育徳園という心字池を中心とする加賀藩庭園の跡を残しているものである。

加賀藩邸以外にも、東大病院地区は加賀藩の支藩である富山藩や大聖寺藩、弥生地区は水戸藩や安志藩の江戸藩邸が存在していたことが絵図面などから知られている(下図)。しかし時代の移り変わりの中で開発が進み、様々な建物が建築されてきたキャンパスの地下に、藩邸であった頃の痕跡が数多く残されているようにも思わなかった事であった。

ところがである。一九八三年の創立百年記念事業の一環として計画された「山上会館」「御殿下記念館」の建設に先だって行なった発掘調査によって、絵図面に描かれていた通りの姿で加賀藩邸であったころの痕跡が見つかったのである。これがその後マスコミを賑わした、いわゆる「梅之御殿」(加賀藩十代藩主重教夫人のために建てられた隠居屋敷)の発見である。また、これと前後して建築された「法学部三号館」「文学部四号館」「医学部附属病院中央診療棟」「理学部七号館」の各地点においても、江戸時代の藩邸生活が偲ばれるような痕跡が見つかり、その成果はすでに報告書で発表している通りである。

調査報告が出されている地点以外にも埋蔵文化財調査室では、二〇〇三年現在までに本郷キャンパスを



中心として六〇数地点の発掘調査を実施しているが、日頃は工事堀の中で調査を行っているために一般の方々に知られる機会がほとんどない。ましてや散策していただくことなど無理な話となつている。そこで今回は本誌面を拝借して、最近実施した調査を中心に成果の一部を江戸時代以降と以前という形で二回にわたって窒息しない程度に紹介してみたい。

## 江戸時代以降(その一)

### 遺跡地図 20

総合研究資料館地点(現・総合研究博物館)

総合研究資料館地点からは一九〇七(明治四〇)年前に前田侯爵が明治天皇行幸のために建築された懐徳館西洋館の建物基礎が見つかっている(写真1)。現在の懐徳館は大学の迎賓館として、一九五二(昭和二六)年になって新たに建築された木造建築である。調査区内に懐徳館が位置することが絵図面などにより確

認されていたが、発掘調査したところ、煉瓦積み基礎及び地階の玄関、便所に当たる部分が予想以上に良く残っていた。現在これら建物の一部は、総合研究博物館アプローチに野外展示され見えて頂けるようになっている。

### 遺跡地図 24

医学部教育研究棟地点(現・医学部教育研究棟)

発掘調査は四回に分けて行われ、二〇〇二年十二月に最終調査が終了したばかりの地点である。ここは加賀藩藩主やその家族などが居住する、いわゆる御殿のエリアであることが絵図面などから知られていた。発掘調査したところ、江戸時代前期から近代までの各生活面が極めて良く残っており、地下室、井戸、屋敷境、御門跡、礎石、能舞台(写真2)、便所跡などの様々な生活の痕跡を見つけることができた。なお、この写真2のような能舞台の下部施設と考えられるものは、これまでに滋賀県彦根城表御殿遺跡、東京都尾張藩上屋敷跡遺跡の二箇所で見つかつており、いずれも基本的な構造は一致している。また現存最古とされる西本願寺能舞台の舞台構造もほぼ同様のものであることがわかっている。

### 遺跡地図 54

総合研究棟(文・経・教・社研)地点(現・経済学研究科棟)

ここは加賀藩十三代藩主斉泰夫人(浴姫)の御殿、中でも膳所周辺に該当する場所であることが絵図面などから知られていた。発掘調査の結果、石組みの地下室(写真3)をはじめとする様々な生活の痕跡が見つかっている。石組みの地下室からは、大量の焼けた瓦や焼土などと一緒に、碗の高台内に墨で「御膳所」と書かれたもの(写真4)などが見つかり、ここが絵図面に描かれていた通り膳所付近であった可能性を裏付ける証拠となった。なおこの地下室は、出土したモノの年代観から一八六八(明治元)年の加賀藩本郷邸の火災時に廃棄されたものと考えられる。